

R5 ほっとるうむ（校内フリースクール）運営規定 R5, 1, 25

1 開級の目的

学校生活においては、所属学級を単位とした活動が多く時間を占め、特性から、大人数集団での生活になじめず、学習や人間関係でのつまずきから精神的に身動きが取れなくなっている生徒も見受けられる。また、学校に通うことに意味を見いだせず、学校外に居場所を求める生徒もいる。本学級は、そういった、毎日学校に登校することになじまない生徒や、所属学級（教室）を中心として学校生活を送ることが苦しくなってしまった生徒が、教室と同時に利用することができる居場所として開級する。所属学級とは別の場所で本人の特性に応じた支援を行うことで、「自分の居場所がある」という実感を持たせたい。

昨今は学校外にもそういった生徒の受け入れが広がっているものの、学校の中に、日常的に個に応じた対応・支援を行う場が確保され、本人や保護者が選択できる状態にあることは、安心・安全で魅力ある学校づくりや、個別最適な学びの実現につながるものである。

教室復帰を目標とし、一時的に利用する場所と限定するのではなく、多様な生徒に対応できる環境と、生徒をいつでも温かく迎える職員体制を整えながら、生徒の社会的自立と将来的な目標を見据え、柔軟に利用できる場所として開級する。

2 対象とする生徒

通常学級および特別支援学級に在籍するすべての生徒を対象とする。（入級生徒は、在籍学級とほっとるうむ、2つの学級に所属する）

3 担当および職員体制

- ①学級担任を配置し、教育相談員とともに運営の中心を担う。生徒への指導・支援および保護者への連絡・対応は、ほっとるうむ学級担任（以下「学級担任」とする）と在籍学級担任が主に担い、学年主任はこれを把握する。
- ②学級担任が、在籍学級担任や学年主任との連絡調整の上、教育支援部会と連携し、本人の支援方針を決め、個別の教育支援計画（および個別の指導計画）を作成する。
- ③個別の教育支援計画（および個別の指導計画）に基づいて、学級担任・在籍学級担任・教育相談員・教科担任が入級生徒の直接的な指導・支援にあたる。生徒指導主事がそれを統括する。
*教科担任は通常学級または特別支援学級を担当する教員が一人週当たり1～2時間ずつ受け持つ。4に示すとおり、自習が基本となるが、生徒の状況や要望に応じて学習指導を行う。
- ④入級生徒の指導・支援においては、特別支援教育相談員や訪問教育相談員の協力を得る。

4 学習（活動）内容

個別の教育支援計画（および個別の指導計画）に沿い、生徒の実態や状況に応じて柔軟に対応することを基本とし、ほっとるうむ独自の時間割に沿って教科担任を配置し、学習を保証する。

- ①学習…自主学習を行う。個別の教育支援計画に沿って、担当職員が学習する内容についてアドバイスする。要望があれば、教科担任を始めとする担当職員が学習を指導・支援する。在籍学級で行われる授業をリモート受講することもできる。
- ②相談…不安を取り除いたり、本人の気持ちや目標を整理したりするために、担当職員と相談できる時間を設ける。
- ③レクリエーション・体育的活動…コミュニケーション力や体力の向上を目標とし、カードゲーム等の

共同作業や、バドミントンなどの運動を行う。

5 手続き

原則、入級には手続きを要するが、手続きの済んでいない生徒の一時的な利用も受け入れる。

- ①入級に際して、本人の希望と保護者の承諾があった場合は、学級担任との面談を経て入級となる。
- ②必要に応じて、体験入級を行う。
- ③入級面談の際に、個別の教育支援計画の作成に取りかかる。
- ④保護者が校長宛に入級同意書を提出する。（期限は年度末まで、毎年度作成）

6 留意点

- ①教室はB棟2F多目的室とする。
- ②教室の開錠は、入級生徒の登校に合わせて、担当職員が行う。
- ③入級生徒の登校は7時45分以降とし、1時間目の開始時刻（8時30分）を過ぎた場合は遅刻、その日の最終授業終了時刻以前に下校した場合は早退とする。
- ④担当職員は、利用生徒のあらわれについて記録する。